

あしがき

2025年4月16日と17日の2日間にわたり開催された技術シンポジウムには、現地参加75名、リモート参加約90名、と多くの方にご参加いただきました。

特別企画「現場が感じる共同利用運用の厳しい現実と将来」では、国立天文台の各観測所やセンターで実際に共同利用運用に携わる皆さまから、テーマに沿ったご講演やライトニングトークを通じて、現場での工夫や課題が共有されました。NECの三好弘晃氏による特別講演では民間企業における現場改革の経験をもとに、課題の克服への貴重なヒントをいただきました。また国立天文台長や幹部をはじめ、観測所およびセンターからの参加者、三好氏も交えたグループディスカッションは、限られた時間ではありましたが、現場の知見を持ち寄り相互理解を深める有意義な機会となりました。一般講演では天文台内外から幅広い技術範囲にわたる研究報告が行われ、天文学に関連する技術の裾野の広さを改めて実感する場となりました。2日間で総勢42名の方にご講演いただき、充実したプログラムとなりました。一方で、アンケートではプログラムの過密さや言語表記への対応不足、発表時間の管理に関するご指摘もいただきました。これらの貴重な意見を真摯に受け止め、次回以降の運営に生かしてまいります。

2024年度の技術シンポは、準備の立ち上がりにやや時間を要しました。「技術シンポについて考える会」が幾度か開催され、シンポジウムの意義そのものについても議論が交わされましたが、その過程を経て世話人会が発足し、4月開催にこぎつけることができました。今後も、技術シンポジウムが、新たな技術課題に柔軟に対応し、継続的に天文学に関する技術交流の場として発展していけるよう、一層の工夫を重ねてまいります。

最後に、ご参加いただいた皆さま、そして企画・運営にご尽力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

2025年5月23日
第44回天文学に関する技術シンポジウム世話人会
代表 東谷千比呂